

## 資料紹介

# 調査報告： 「石座神社の祭祀組織と年中行事」

平 原 園 子

京都市左京区岩倉にある石座神社の祭祀組織および年中行事について報告する。調査期間は、2011年（平成23）から2014年（平成26）である。

## 第1章 岩倉と石座神社

### 1. 岩倉の概要

岩倉という地名は、山住神社にある巨石に神が降りたとされる磐座信仰によるといわれている。また平安遷都のはじめに、王城鎮護を目的にして都の四方の山（四方の山の1つが岩倉の地にある）に石蔵が造られ、そこに一切経を埋められたことから、岩倉は石蔵あるいは岩蔵と呼ばれるようになったとする説もある。

岩倉は、京都市の北東部に位置し、京都市との境には小さな山があり四方をぐると山に囲まれた南北約4km、東西約3kmの小さな盆地にある。岩倉には、岩倉村、長谷村、中村、花園村、幡枝村の5つの村があり、1889年（明治22）に愛宕郡おたぎん岩倉村となり、さらに1949年（昭和24）に京都市に編入され、現在の京都市左京区岩倉となった。旧岩倉村は、小字であった村松、中在地、忠在地、上蔵、西河原、下在地の6地区からなっていた。石座神社は、旧岩倉村で現在の村松町、中在地町、忠在地町、上蔵町、西河原町、下在地町の氏神である（図1）。

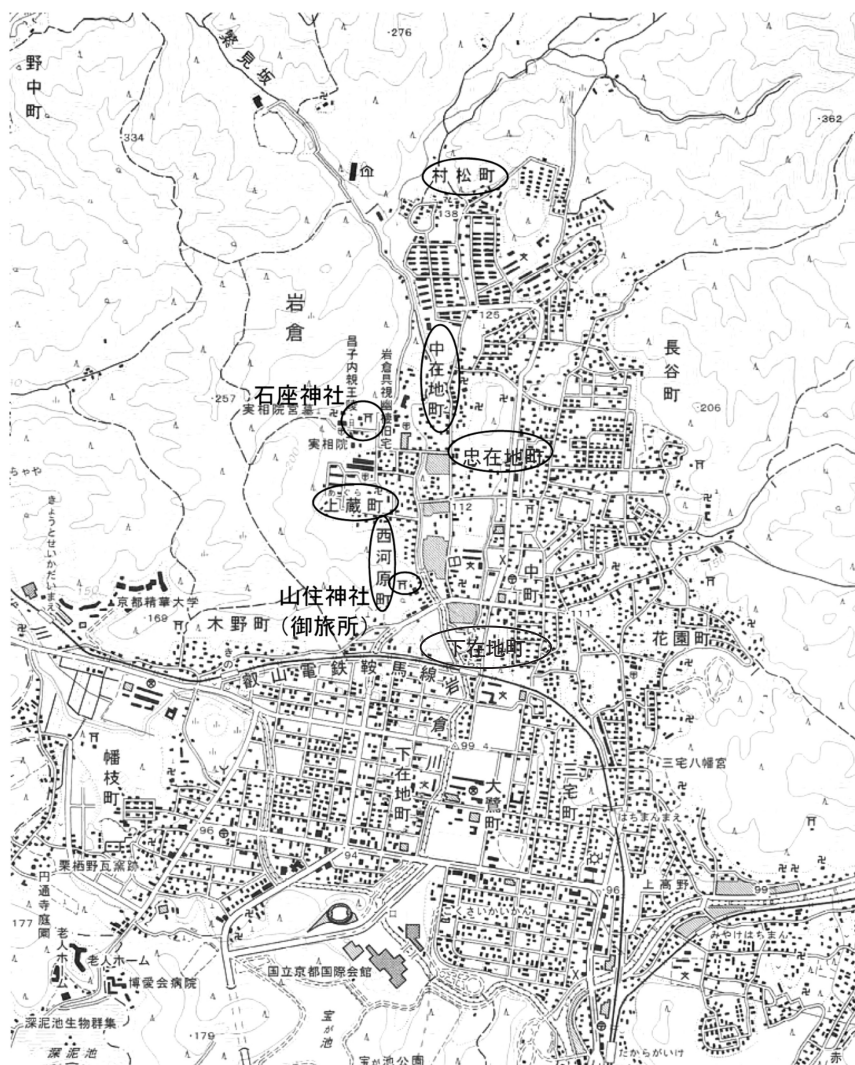


図1 岩倉の地図

国土地理院 1:25000地形図 京都東北部と大原より作成。

## 2. 石座神社

石座神社は、971年（天禄2）、山号を岩蔵、俗称を岩倉観音とする天台宗の大雲寺を建立する際に鎮守社として、山住神社（現在の御旅所）に祀られていた岩倉の産土神である石座明神を勧請したのがはじまりである。そして、997年（長徳3）4月18日、御神託により新たに新羅、八幡、山王、春日、住吉、松尾、賀茂の祭神の七所を勧請した八所明神が石座神社の起源とされ、八所明神を祀っている社を東社と称される。さらに八所明神を加えた伊勢、平野、貴船、稻荷の十二所を勧請して十二所明神とされ、十二所明神を祀っている社を西社と称される。それ以外にも、東末社には熊野神社、貴船神社、出雲神社、西末社には稲荷神社、鹿島神社、香取神社、猿田彦社・愛宕社（福善社）、一言神社<sup>(1)</sup>がそれぞれ祀られている。

石座神社の鳥居をくぐり石段を上ると、両脇にそれぞれ簡素な建物がある。地元ではこの建物のことをミヤザと称している。左手にあるミヤザが西座、右手にあるミヤザが東座という。西座は西河原町・忠在地町・下在地町、東座は村松町・中在地町・上蔵町の各町ごとに仕切られており、10月の大祭時には各町の氏子たちは所属のミヤザにて当役から接待を受ける。当役は、10月の秋季大祭では多くの役割を担っている。西座と東座の前を進み石段を上ると、正面に拝殿、左手に宝蔵と神饌所、右手に社務所がある。さらに石段を上ると、先述した本殿の東社と西社、東末社と西末社、猿田彦社・愛宕社（福善社）、一言神社がある。

## 第2章 石座神社の祭祀組織

### 1. 石座神社奉賛会

石座神社の祭祀組織に石座神社奉賛会（以下、奉賛会）がある。奉賛会は、「石座神社の崇敬者を結集し、御祭神の御加護を仰ぎ、御神徳を宣揚し、本殿・拝殿その他宗教法人関係建物の維持管理及び集会所の円滑な運営を計ることを目的」（『石座神社記述』2002）として、宗教法人としての承認を得るため、奉賛会が結成された。奉賛会の主な活動は、①本殿・拝殿・その他宗教関係建物等の補修及び維持管理、②秋季大祭・その他の奉賛、③その他の宗教活動に

必要な事業、④集会所の運営管理である。

奉賛会は、村松町、中在地町、忠在地町、上蔵町、西河原町、下在地町に住む氏子から構成されており、6町は奉賛会の支部という位置付けである。後述するが、6町から選出された役員が、奉賛会の役員となる。奉賛会には、2014年現在、222戸が加入しており、これまで大幅な増減はなく、ほぼ220～230戸を推移している。会費は1戸につき一律1500円である。

奉賛会の役員は、会長1名、副会長1名、本部役員5名、総代6名、郷頭6名、監事2名である。村松町は戸数が少ないため本部役員と総代を兼ねていることから、この人数になる。会長は、各町の本部役員・総代・郷頭からの推薦で選出され、任期は5年である。就任する年齢が70歳までと奉賛会の規約で決まっており、それ以上の年齢だと会長にはなれない。副会長は、会長が本部役員の中から指名し、指名された者は本部役員と副会長を兼任し、任期は2年である。本部役員は奉賛会の総務・会計・財産管理、総務は山住神社にある集会所の運営管理、郷頭は氏子への連絡・調整などをする。本部役員・総代・郷頭は各町からの選出で、任期は2年である。本部役員、総代、郷頭を合わせて三役と呼ぶ。監事は宮元町総代と次期宮元町総代が行う。

最初に郷頭2年、次に総代2年、最後に本部役員2年をして、引退する。引退する年齢は、70歳が理想とされている。奉賛会は、基本的に親から（義理）息子へ受け継ぐ世襲制である

氏子総会は、会長と各町の三役の出席のもと、毎年2月に石座神社の社務所で行われる。役員会は、話し合いが必要なときに、その都度会長と各町の本部役員で行われる。

## 2. 各町の奉賛会支部

石座神社奉賛会は、各町の奉賛会支部を基盤として成り立っている。各町の支部のすべての氏子のうち、石座神社の大祭等に関与する氏子とあまり関わらない氏子が存在する。西河原町では、当役や役を回して祭祀行事に実質的に関わる家の組織を在地会と呼ぶが、他の町ではそのような組織および名称は聞かれず、祭祀行事に関わる家とそうでない家を認識しているにすぎない。

しかしながら、従来の研究では基本的に宮座と称されてきた組織に相当すると考えられるので、本調査報告において、便宜上この組織を「宮座」と表記することにする。

「宮座」には、先述した本部役員、総代、郷頭の他に、上五人、当役、役者、相談役、宰領の役がある。役者と宰領は、神輿を担ぐ若い世代が<sup>(3)</sup>つとめ、神輿担ぎを卒業する50歳代になると、当役や上五人の役をするようになり、その後、郷頭、総代、本部役員をし、「宮座」を退く。上蔵町の場合、本部役員1名、総代1名、郷頭1名、上五人5名、当役2名、役者3名、相談役3名、宰領1名がいる。三役以外の任期は、すべて1年である。

「宮座」の中で、最も年齢を重ねた者が本部役員をし、2番目に若い者が総代、3番目が郷頭をする。ただし、本部役員は、主に石座神社の運営に関わるので、「宮座」の運営からは離れており、郷頭がまとめ役として「宮座」を運営している。三役は、石座神社の年中行事に参列する。三役以外は、主に大祭の時の役である。

上五人は、一番和尚いちばんじょう、二番和尚にばんじょう、三番和尚さんばんじょう、四番和尚よばんじょう、五番和尚ごばんじょうをあわせた総称である。年の若い者から1年ごとに順番に、五番和尚、四番和尚、三番和尚、二番和尚、一番和尚をつとめ、郷頭へとなる。上五人は、大祭時には素襖を着用し、剣鉾を持つ。

当役は、上蔵町だけ2名おり、上蔵町以外の町では1名である。上蔵町のみ当役が2名いる理由は、当役は多くの役割を担っているため、少しでも当役の負担を軽くするためである。当役の役割は、大祭の昼神事の行列に参列するお稚児さん1人（行列に歩いて参加できる年齢で小学校に入学する前）と付添い人1人（お稚児さんの母親）の手配や松明造り、石座神社での神具や衣装の受け渡しと、大祭時の飲食の用意などまだまだたくさんある。西河原町のある人は、3回も当役が回ってきて大変だったとのことである。

役者は、もともと10月の大祭月の前月である9月30日の夜に、各家の御庇いと祭り時の無事を祈り各氏子の家の屋根の上に櫛を投げ置いていた。これをヨミサシと呼び、役者はこのとき、どんなに声を掛けられても返事をしてはならないとされていた。しかし、ヨミサシは、住宅の増加などを理由に1977年（昭



和52) になくなった。現在の役者の役割は、上蔵町では奉賛会費及び宮座会費の徴収である。

宰領は、神輿の先導をする役で、神輿の進行方向、誘導などをする。もし神輿に関して問題が起これば、それはすべて宰領の責任になる。宰領をつとめるには、ある程度神輿を担いできた経験を持っていることが必要である。

### 3. 各町の大祭における役割

各町には、大祭における役割がある。西座の西河原町と東座の村松町は、本殿に供える神饌物（甘酒）の奉納をする。両町は神饌を供えるため、西河原町



図2 西河原町のミヤザの様子

と村松町のミヤザのみ座敷が敷かれている（図2）。西座の忠在地町は、西座の大松明を作り（図3）、東座の中在地町が東座の大松明を作る。西座の下在地町は、御旅所を出発する還幸行列に当役が白丁の衣装を着て、御幣を息のかからない高さに持ちあげながら、行列の先頭部を巡行する。東座の上蔵町の役割は3つある。1つは大祭時の神輿（大人神輿と子供神輿）の台棒（担ぎ棒）の絡みと取り外し、1つは朝・昼神事の行列のときに神輿の前で太刀を持ち巡行し、1つは朝神事の際に、迎え松明を持って行列を迎えるという役割である。上蔵町では、大祭前に5日以



図3 西座の御松結い

上の神輿絡みの練習を上五人など立会いのもと行っている。各町の役割がどのようにして決まったのかはわかっていない。

次の章では、石座神社の年中行事をみていく。

### 第3章 石座神社の年中行事

#### 1. 石座神社の年中行事に関わる奉仕

石座神社の年中行事については、表1の通りである。黒色に塗った行事が、石座神社の主な行事である。2月の氏子総会後の奉賛会の役員が交替して、石座神社の行事は、7月の湯立祭から始まる。つぎに、8月に神社の蔵に納めている神輿の金具や衣装などの虫干し、10月には大祭とそれに向けての準備（御松刈り、御松出し、御松結い、神輿装具蔵出し）と後片付け（神輿解体蔵入れ）があり、11月の御火焚祭と新穀祭、12月の新年に向けての準備である新年諸準備、1月の元旦祭、2月の御祈禱祭で終わる。神事に関わる行事であり、全役員が参加する。

表1の白色の部分は、決められた奉賛会の役員および「宮座」会員が、奉仕する行事である。本部役員は、3月以外の毎月1回は、石座神社にてさまざまな奉仕をする。さらに、祭事を行う前には、必ず祭事の準備と境内の清掃をする担当町がある。担当町は、中在地町と村松町、忠在地町と西河原町、上蔵町と下在地町の2町が組み、境内の清掃などの奉仕を月1回の持ち回りで行っている。このような奉賛会の役員による奉仕によって、石座神社の神事は執り行われている。

つぎに、石座神社の主な行事についてみていく。なお、行事を行う月日は、平成26年度とする。

#### 2. 石座神社の主な行事

##### ・湯立祭（7月20日 16時～）

9時、担当町の三役は、湯立祭で使用する竹を伐採する。13時、担当町の三役は、石座神社にて式典の準備及び清掃を始める。

16時前、神官と会長および担当町以外の役員が石座神社に集まり、拝殿に置

表1 石座神社奉賛会事業計画（平成26年度）

月日	曜日	開始時間	行事の内容	出席者
4月中旬まで			松明台木発注確認。柴刈り・竹刈り予定地の所有者に、お願いし、了解を得る。	
6月15日	日	午前9時	石座神社境内の清掃作業	本部役員
7月20日	日	午後4時	湯立祭	全役員
7月下旬			松明用台木搬入	
8月17日	日	午前9時	神具虫干し	全役員
9月7日	日	午後7時30分	平成26年度大祭行事・日程等協議会	全役員
10月4日	土	午後4時	服喪者のお祓い	本部役員、関係者
10月5日	日	午前9時	御松刈り	全役員・各町当役・次期当役
10月12日	日	午前9時	御松出し	全役員・各町当役
10月19日	日	午前8時	御松結い	中在町・忠在町・他町各2名応援
			馬場の清掃・草捨て場の草刈り	本部役員
10月23日	木		この日までに各町は、神事道の清掃	
10月23日	木	午前9時	祭礼用具渡し準備	中在町・村松町・宮元町郷頭・次期宮元町郷頭
10月24日	金	午前6時	神輿・装具蔵出し	宮元町氏子全員・全役員
		午前9時	神輿飾り、祭礼用具渡し、諸準備	各担当町・全役員
10月25日	土		石座神社大祭	
		午前2時	朝神事	
		午後2時	昼神事	
10月26日	日	午後1時30分	神輿飾り解体・祭礼具収納・返納	各担当町・全役員
		午後3時	神輿蔵入れ	各担当町・全役員・宮元町氏子全員
			片付け	各担当町
10月27日	月		礼状発送	
		午前10時	洗濯物外注予定	中在地町・村松町三役・宮元町郷頭
10月下旬			（神社庁洛北支部総代会）未定	
11月3日	月・祝	午後4時	御火焚祭	全役員
11月24日	月・祝	午後1時	洗濯物受取・収納	中在地町・村松町三役・宮元町郷頭
		午後4時	新穀祭	全役員
12月23日	日・祝	午前9時	新年諸準備	全役員
12月31日	水		神社の飾り付け・甘酒作り準備	本部役員・各町総代
1月1日	木	午前11時	元旦祭	全役員
			お供え受付・御神酒・甘酒接待	各町担当
1月2日	金	午前9時	賽銭勘定・片付け・礼状発送等	本部役員・総代
1月18日	日	午後7時	会計監査	本部役員・関係役員
2月11日	火・祝	午後3時	御祈禱祭	全役員
2月中旬			松明台木発注	※昨年は1月に発注
3月			（左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議）未定	
3月下旬			（京都府神社総代会）未定	



かれた椅子に着席する。担当町は、作業服を着用しているため、拝殿横に並ぶ。16時に式典が始まる。式典は、神官による修祓、宮司一拝、献饌、祝詞奏上が行われる。次に、巫女による神楽奉奏（このとき、本部役員1名が神楽太鼓を叩く）後、湯釜の湯の中に塩、米、酒などを入れ笹の葉で湯釜の中をかき混ぜ、笹の葉で湯釜の湯を周囲に振りかける。神官、巫女そして会長（この時、役員は起立し会長にあわせ礼拝）による玉串奉奠、撤饌、宮司一拝がある。その後、全員に湯飲み茶碗が配られ、神官が湯釜の湯をその茶碗に注ぎ、会長の合図で一斉にいただく。4時15分ごろ、式典が終了する。その後、全員で拝殿にある神饌を神饌所に戻し、湯釜や竹、拝殿の椅子などを片付ける。

・虫干し（8月27日 9時～）

18日に行う予定が、台風のため1週間延び、27日に行われた。

9時前、会長および各町の三役が石座神社に集まる。9時、本部役員の総代から当日の作業説明がある。作業内容は、蔵出し、本殿など6社の鈴緒の取替え、キシミの入れ替えなどである。説明が終わると、全役員は作業を開始する。財産管理を担っている中在地町と村松町の指示のもと、全役員は蔵から衣装や神具を出す。衣装は社務所へ、提灯や運上幕、剣鉾の吹散などの神具は拝殿に町ごとにまとめて置かれる。約30分ほどで、蔵から出し終わる。その後、全役員は清掃や植木の剪定などの作業をする。境内清掃の際、砂山だけは西河原町のある役員が必ず行く。引退のことを考えて、引継ぎをしないといけないがなかなか引き受けてくれる人がいないという。11時、虫干しをしていた衣装や神具を蔵に入れ、社務所にて昼食をとる。本来ならば、15時まで虫干しを行うが、この日は午前中に終わらせ、午後から男結びの練習を行った。

・御松刈り（10月6日 9時～）

9時前に、会長、各町の三役、当役、次期当役が石座神社に集まる。9時、本部役員の総代が、当日の作業内容の説明をする。作業は、柴刈りと竹の伐採である。説明が終わると、参加者は、軽トラックに分乗し、柴刈りの場所である石座神社の裏山へ移動する。チェーンソー（業者に依頼）・のこぎり・ナタで

サカキ以外の木を切り、後方では切られた木をさらにある程度の長さに切り揃えて70束作る。束ねた柴は、乾燥させるためにそのまま山に置いておく。11時ごろ、木を切り終わると、今度は大松明に使う竹を切りに行く。場所は、奉賛会会員の所有地で竹の生育状況を見て刈る場所を決める。竹を切る場所に移動し、合わせて90本の細竹・太竹・化粧竹を切る。作業は、先程のチェーンソーなどで竹を切り、枝を落として軽トラックに載せ石座神社まで運ぶ。なお、大松明に使う柴の束は80束であったが、2010年（平成22）ごろ大松明を点火している時、ミヤザに燃え移ってしまったため、翌年から10束減らし大松明を小さく作っている。

#### ・御松出し （10月12日 9時～）

9時前に会長、各町の三役、当役が石座神社に集まる。9時、本部役員の総代から本日の作業内容について説明がある。作業は、先週刈った70束の柴を軽トラックで神社の西座と東座にそれぞれ35束を運び入れる。説明が終わると、軽トラックで先週柴刈りした場所まで行き、束ねた柴を車に乗せ、ミヤザまで運ぶ作業を束がなくなるまで続ける。10時半ごろ、搬入作業が終わる。

御松出しが午前中で終わるので、午後から松明をつくる町が多い。各町は、大祭前にトウヤ宅の玄関先や庭先で松明を作る。作る松明は、5種類あり、篝火松明、先松明もしくは中松明、小松明、予備松明、迎え松明である。これら



図4 中在地町のトウヤ宅における松明作り

の松明は、すべて朝神事で使用する。篝火松明は、拝殿前の石段の左右に置き、足元を照らす。先松明もしくは中松明は、トウヤ宅から石座神社と石座神社から御旅所に向かう時に点火する。小松明は、献饌と撤饌の際、ミヤザと本殿を行き来するときに点火する。予備松明は、灰の後始末

のときに使用する。迎え松明は、神社から御旅所に向かう行列を点火した松明で途中まで迎える。なお、松明町である中在地町と忠在地町は、篝火松明1本、先松明2本、小松明4本、予備松明1本を作る（図4）。上蔵町は、先松明2本、迎え松明1本を作る。村松町・下河原町・下在地町は、先松明2本を作る。

・御松結い （10月19日 8時～）

8時前に会長、各町の三役、松明町の忠在地町と中在地町の「宮座」OBが石座神社に集まる。8時、本部役員の総代から本日の作業説明の後、大松明を作る。大松明を作るのは、多くの人手が必要なため2町の松明町から約20名ほどの「宮座」OBが参加する。忠在地町は西座、中在地町は東座の大松明をそれぞれ作る。松明町以外の総代と郷頭は、あくまでもお手伝いまたは応援として参加する。本部役員は、大祭に向けて神域を整える。

大松明は、京北町から取り寄せた12本（閏年は13本）の台木を土台とする3本の大木の上に交差させて並べる。台木の木と木の間を縄でいかだのように組み、化粧結びをする。台木の上に柴35束を載せ、刈った細竹で周囲を覆い、竹と竹の間に縄を通して固定させる。太竹を巾3cmに割り細い竹にし、その細い竹で大松明12ヶ所（閏年だけ13ヶ所）を縛り、大松明の上部に化粧竹2本を載せ、その竹と細い竹とを縄で結び、化粧結びをする。最後に、大松明の少し上部をサカキの枝を立てて完成させる。

・神具蔵出し （10月24日 6時～）

6時前に会長、各町の三役、宮元町の氏子が石座神社に集まる。6時、神輿と衣装を蔵から出し、神輿は拝殿に衣装は社務所に置く。蔵からすべてを出し終えると、一旦、全員帰宅する。ただし、宮元町は、9時まで神社にて祭礼具の見張りをする。9時、会長、各町の三役が神社に再度集まり、各自がそれぞれの役割に従い大祭の準備を行う。神輿担当の上蔵町総代、郷頭、上五人、神輿担ぎ3名は、拝殿に置かれた3基の神輿飾りをする。宮元町は、御旅所の運上幕を張り、昼神事の際に利用する5ヶ所の休憩所に空き缶用ポリバケツの設置などをする。上蔵町及び宮元町以外の三役は、ミヤザの屋根の落葉落としや

社殿に運上幕・拝殿に提灯の取り付け、神饌を載せる台の設置など大祭に向けての準備や清掃をする。9時半から、各町の当役が衣装や剣鉾など祭礼具を石座神社に取りに来て、ミヤザの清掃もする。各自の役割が終われば、解散する。12時半、上蔵町の神輿飾りが終わる。その後、剣鉾の吹散などの部品が当役宅にあるので、この日の午後から翌日の朝神事前にかけて、各町は当役宅の座敷で剣鉾を組み立てる。ただし、上蔵町だけは、組み立てる場所が当役宅の庭先である。

・大祭 （10月25日 2時～）

石座神社の大祭は、朝神事と昼神事があり、朝神事は大松明が点火される。大松明の点火の由来は、昔、岩倉に棲む雄と雌の大蛇が、住民や家畜を害し住民が困り果て岩倉の石座明神に祈願すると、神火で退治せよとお告げがあった。住民は早速松明をつくり、神前に灯火すると、雄と雌の大蛇を退治することができた。このことから、石座神社では大松明を灯火するようになった。

〔朝神事〕

2時前、氏子たちは当役宅に集合し、2時ごろ、石座神社に向かい当役宅を出発する。上蔵町は、石座神社にもっとも近い地区のため、2時15分に出発する。提灯を持った郷頭を先頭に点火している松明、剣鉾、御供籠、総代、松明、神輿担ぎの順で進み、石座神社に向かう。石座神社の手前で他の町と合流し、<sup>(4)</sup>下在地町、西河原町、中在地町、忠在地町、村松町、上蔵町の順番で神社に到着する。石座神社に着くと、本殿に参り、2時半ごろからミヤザにて会食歓談となる。同じ時刻の2時40分から拝殿前にて神事が始まり、会長と各町の三役が参列する。宮元町の郷頭によるアナウンスで神事は進行する。神官による修祓、宮司一拝のあと、神饌物献饌に続く。神饌物献饌は、会長と三役が神饌所から本殿前の仮神饌台まで互い違いで一列に並び、神饌所から順送りに手渡して神饌を仮神饌台まで運ぶ。つぎの御神火移しは、松明町が本殿前にある御神火を松明に移し、ミヤザ前にある大松明に点火する。3時ごろ、大松明が点火される。つぎに、御供の献饌となる。これは、村松町、中在地町、忠在地町、西河原町の当役が御供の餅を入れた御供籠を仮神饌台まで運び御供を上げる。

御供が上がれば、神官による祝詞奏上と還霊詞奏上があり、本殿から神輿へ御霊が移される。その後、拝殿で巫女による御神楽の奉納があり、神官、巫女、会長による玉串奉奠、撒餞と続く。撒餞は、献餞と同じように会長と三役により神饌所に下げられ、4町の当役が御供を下げる。3時45ごろ、神事が終わる。4時、



図5 上蔵町の神輿絡み（朝神事）

上蔵町の神輿絡みが行われる（図5）。5時、一言神社の御霊を乗せた子供神輿が出発し、5時半、大人神輿が御旅所に向かって出発する。同時に、下在地町と上蔵町の当役は、御供を入れた御供籠を行列とは異なるルートで御旅所まで運ぶ。一方行列は、石座神社に向かった順番で下在地町の火の付いた松明・上五人による剣鉾を先頭に、西河原町の松明と剣鉾、中在地町の松明と剣鉾、忠在地町の松明と剣鉾、上蔵町の松明と剣鉾、村松町の松明と子供神輿、上蔵町の太刀持ちと大人神輿が続く。途中、上蔵町の迎え松明が、行列を迎える（図6）。6時半、御旅所に到着し、7時、御旅所にて会長と各町の三役、当

役が参列し神事が執り行われる。神事では、下在地町と上蔵町の御供が上げられる。神事が終わると、神輿担ぎの者たちで手分けをして剣鉾と御供籠を当役宅まで運ぶ。

〔昼神事〕

12時、上蔵町の神輿かきが御旅所に集まり、2基の神輿絡みを行う。13時、御幣迎え



図6 上蔵町の迎え松明





図 7 下在地町の御幣役



図 8 子供神輿



図 9 神輿と上蔵町の太刀持ち

のため、各町の一番和尚が下在地町の当役宅に行く。13時半、下在地町の当役宅から御幣および下在地町の剣鉾と神輿かきが御旅所に向かい出発する。各町もそれぞれ当役宅から一番和尚以外の上五人が剣鉾を持ち、御旅所に向かい出発する。14時前に、各町の昼神事参加者が集まる。14時、御旅所から石座神社に向かう還幸行列が出発する。行列は、「石座神社」と書かれた放下旗を先頭に、金棒引き2名、下在地町の当役による御幣(図7)、各町の一歩和尚、下在地町・西河原町・中在地町・忠在地町・上蔵町の上五人および当役による剣鉾、同じ順番で各町のお稚児さんおよびその付添い人、途中から岩倉史謡踊りの奉納者8名、子供神輿(図8)、大人神輿(図9)、神官2名、会長と白丁姿の宮元町総代と次期宮元町総代が続く。16時半、行列の最後である大人神輿が石座神社の拝殿に置かれ、上蔵町により神輿の台棒および鳳



凰が取り外されると、すぐに本殿とは反対側の拝殿前に紅白幕が張られ、その紅白幕の前では宮元町の女性 8 名による岩倉史謡踊りが奉納される。本殿では、会長および各町の三役、白丁らが参列し、神官による 3 基の神輿から御霊を本殿に移す御霊移しが行われる。岩倉史謡踊り奉納が終わると、紅白幕が取られ、8 名の岩倉史謡踊り奉納者は神事に加わる。神官、会長をはじめ参列している三役、8 名の岩倉史謡踊り奉納者は 1 人ずつ玉串奉奠をする。会長および各町の三役によって撤餞が行われる。17 時、すべての神事が終わる。

・神具蔵入れ （10月26日 13時30分～）

宮元町は、午前中に御旅所の運上幕や提灯などを取り外し、片付けをする。

神饌の係りである西河原町では、9 時から当役宅にて、剣鉾の解体を始める。参加者は、三役、上五人、当役、神輿担ぎの約 10 名ほどである。剣鉾の解体がほぼ終わりかけると、数名が御旅所に行き提灯を片付けたり清掃をする。10 時、すべての作業が終わると、お供えをした甘酒が戻っているので、当役宅にて甘酒をいただく。10 時半、参加した三役らは、当役宅から帰宅する。

13 時半前に、会長、各町の三役、宮元町氏子が石座神社に集まる。神輿担当の上蔵町は、上五人と神輿かき 3 名も参加し、拝殿上の神輿 3 基の飾り付けを外していく。宮元町の郷頭は、衣装と祭礼具を返しにくる各町の当役の応対と返品の数や衣装の汚れなどを、次期宮元町郷頭と財産管理の本部役員立会いのもと確認していく。会計担当の西河原町本部役員は、賽銭の勘定をし、忠在地町本部役員は、昼神事に使用した休憩所の片付けをする。宮元町の氏子は、主に本殿前に設置した仮の神饌台の撤去をする。残りの他の町は、社殿の運上幕・提灯の片付けや清掃などをする。15 時、神輿飾りの解体が終わると、上蔵町および宮元町は、神輿を蔵に入れる。15 時半、神輿蔵入れおよびその他の作業が終わる。

・御火焚祭 （11月3日 16時～） 図10

13 時、担当町の三役が石座神社に集まり、御火焚祭の準備と境内の清掃をする。準備は、拝殿床の雑巾がけと拝殿に神楽太鼓・折畳み椅子の設置、神饌の



図10 御火焚祭

準備、割木の組み立てなどである。16時前、神官、会長、担当町以外の三役が、紋付羽織袴で石座神社に集まり、拝殿に置かれた椅子に着席する。担当町は、作業服を着用しているため、拝殿横に並ぶ。16時に式典が始まる。式典は、修祓、宮司一拝、そして、神官が灯された燭台の火種を担当町に渡し、担当町が割木に

点火する。その後、献饌、祝詞奏上、巫女による神楽奉奏（この時、本部役員1名が神楽太鼓を叩く）と続く。そして、神官、巫女そして会長（この時、役員は起立し会長にあわせ礼拝）による玉串奉奠、撤饌、宮司一拝である。最後に、全員に盃が配られ、神官が御神酒を盃に注ぎ、会長の合図で一斉にいただく。16時15分ごろ、式典が終了する。担当町の総代・郷頭は、火の付いた割木組みを片付け、それ以外の役員は、拝殿にある神饌を神饌所に戻し、拝殿の折畳み椅子と奠座を片付ける。

#### ・新穀祭（11月24日 16時～）

担当町は、境内の清掃と拝殿に奠座と折畳み椅子、神饌を設置をする。

16時前に、神官、会長および担当町以外の三役が石座神社に集まり、拝殿に着席する。16時、式典が始まる。式典は、神官による修祓、宮司一拝、献饌、祝詞奏上、玉串奉奠、撤饌、宮司一拝がある。玉串奉奠は、会長が行うときは、役員は起立し会長にあわせ礼拝をする。最後に、全員に盃が配られ、神官が御神酒をその盃に注ぎ、会長の合図で一斉にいただく。16時10分、式典が終了する。その後、全員で拝殿にある神饌を神饌所に戻し、拝殿の折畳み椅子と奠座を片付ける。

## 調査報告：「石座神社の祭祀組織と年中行事」

### ・新年諸準備 （12月23日 9時～）

9時前、会長および各町の三役が石座神社に集まる。9時、本部役員の総代から本日の作業内容が伝えられると、各自作業にかかる。本日の作業は、注連縄飾りと植木の剪定、社殿の清掃、元旦に燃やすたき火の準備、来年用の割木の用意などである。注連縄飾りは、宮元町と次期宮元町が行い、それ以外の作業は宮元町以外の町の役員が行う。宮元町は、注連縄に使うユズリハとウラジロを当日までに用意しておく。注連縄は、社殿および鳥居などに飾る。役員は、昼食をはさみ、15時まで作業を行う。

### ・元旦祭 （1月1日 11時～）

6町の総代、郷頭、当役、次期当役は、前日の31日23時から1日3時、3時から6時までというように4時間交代で1日18時まで、石座神社にて参拝者の応対をする。総代たちは、社務所にて参拝者からのお供えを受けたり、お札やお守りなどを授与したり、参拝者への御神酒・甘酒の接待やたき火の管理などを行っている。本部役員は、適宜参拝者の応対と、正月の準備と後片付けを行う。

11時前、神官、会長および各町の三役は、紋付羽織袴姿にて石座神社に集まり、拝殿に着席する。11時、式典が始まる。式典は、新穀祭と同じである。11時5分、式典が終了する。その後、全員で拝殿にある神饌を神饌所に戻し、拝殿の折畳み椅子と奠座を片付ける。

### ・御祈禱祭 （2月11日 16時～）

15時前に、会長および各町の三役が石座神社に集まり、拝殿に着席する。15時、式典が始まる。式典は、新穀祭と同じである。15時5分、式典が終わる。その後、全員で拝殿にある神饌を神饌所に戻し、拝殿の椅子と奠座を片付ける。

### 《謝辞》

本調査報告を執筆するにあたり、石座神社奉賛会会長の高橋武氏、玉置一郎氏をはじめ、継続調査を認めてくださった上蔵町奉賛会支部の皆様、村松町、中在地町、忠在地町、西河原町、下在地町の本部役員、総代、郷頭の方々に心

から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

#### 註

- (1) 一言神社は、「明治11年（1878）村松正水山より現在地に遷座され摂社として祀られてい」（『石座神社記述』2002）る。村松町には、一言神社の御旅所があり、大祭のときには、一言神社の御霊を載せた子供神輿が石座神社を出発して、村松町の御旅所に立ち寄る。
- (2) 宮元町とは、6町が毎年持ち回りで石座神社の大祭などの準備と後片付けを担当する町のことである。次期宮元町は、翌年の宮元町のことである。宮元町の役割は、榊の用意、御旅所にて剣鉾立ての設置と後片付け、御神灯の用意と片付け、放下（「石座神社」と記した旗）持ち、金棒引き、朝神事の際のアナウンス、お稚児さん2名の手配（宮元町以外は当役がお稚児さん1名を手配する）、御旅所の運上幕の取り付けと片付け、行列時の各休憩所にゴミ箱設置、石倉史謡踊り奉納をする女性8名の手配と踊りの練習指導などである。宮元町になると、これらの役割をつとめるために、大祭に関わる人数が通常の大祭に比べて多くなる。
- (3) 石座神社の神輿は、大人神輿2基と子供神輿1基がある。大人神輿の1基は、石座神社の本殿東社にならい「東神輿」、もう1基を西社にならい「西神輿」と称する。その後、「東神輿」は「男神輿」、「西神輿」を「女神輿」と呼ぶようになった。「男神輿」は、東座の村松町・中在地町・上蔵町、「女神輿」は、西座の西河原町・忠在地町・下在地町の氏子に担がれていたが、戦後担ぎ手が少なくなったことから、現在は6町の氏子全員で「女神輿」1基を担いでいる。「女神輿」975kgより「男神輿」1200kg（推定）のほうが重いといわれている。
- (4) 村松町は、石座神社に入る順番が決まっていない。石座神社に向かう途中で他の町と合流したタイミングで列に加わる。

以上が、石座神社における祭祀組織と年中行事の調査報告である。

#### <参考文献>

- ・石座神社奉賛会2002『石座神社記述』
- ・中村治1995『洛北岩倉誌』岩倉北小学校創立20周年記念事業委員会  
2007『洛北岩倉』明徳小学校創立百周年記念事業実行委員会